

播磨国 千 種 鉄

1.

「たたら」製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地

和鉄のふる里『千種・岩野辺』

chigsal.htm by M.Nakanishi

- 1.1. 播磨国 「千種鉄」 千種・岩鍋 Country Walk
古代製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地 COUNTRY WALK
- 1.2. 古代製鉄の神 金屋子神社 COUNTRY WALK と 金屋子神 神話島根県 広瀬町
- 1.3. 兵庫県立歴史博物館〔1〕 「千種鉄 たたら」 ビデオライブラリー
- 1.4. 兵庫県立歴史博物館〔2〕 兵庫歴博ゼミナール「発掘が語る兵庫の歴史 兵庫の鉄」

1.1. 和鉄のふる里『千種・岩野辺』



1. 和鉄「千種鉄」のふるさと『兵庫県 千種・岩鍋』とその歴史
2. 千種 天兒屋たたら公園と天兒屋鉄山跡
3. 古代金屋子神降臨の地 岩野辺(岩鍋)

1. 『兵庫県 千種』とその歴史

金屋子神 千種岩鍋 降臨の伝承

播磨国志相郡岩鍋なる桂の木に高天が原より、はしらの神天降り座すあり。

民驚きて「如何なる神ぞ」と問いまつる。

時に、神託げて曰く、「われは是れ、作金者金屋子の神なり。…吾は西の方を守る神なれば、むべ住むところあらん」として、白鷺に乗りて西の国に趣たまふ。

出雲国の野義郡の黒田が奥非田の山林に着きたまひて…

島根県 広瀬町 「金屋子神社」祭文より



国道沿い千種岩野辺に建つ
金屋子神 降臨の碑



兵庫県千種の位置
兵庫県宍粟郡 岡山県との境



千種鉄 和鉄 発祥の地 千種 と 千種川



国道沿い千種岩野辺に建つ
金屋子神 降臨の碑

兵庫県の西端 中国山脈の南側山懐 岡山県との県境にそびえる三室山から氷ノ山にいたる山塊を背景にそこから流れ出る千種川に沿って千種の街が広がる。

ここは 中国山地の山懐千種川の源流に位置し、ここから算出する砂鉄を用いた「和鉄」発祥の地「千種鉄」の産地として古代から製鉄が盛んに行なわれたところである古代 金屋子神 千種 岩鍋の地への降臨伝説や「播磨風土記」にも記載があり、7,8世紀には盛んに製鉄が行なわれていたことが解っている。

また 伝承によると神功皇后が朝鮮出兵の帰りに瀬戸内海を通られ、千種川の河口が濁っているのに驚かれ「なぜ濁っているのか」とお供の者に尋ねられると「この川上で天兒屋根命の子孫が、鉄砂（カンナ）流しをしているからです。」と答えたと言われている。

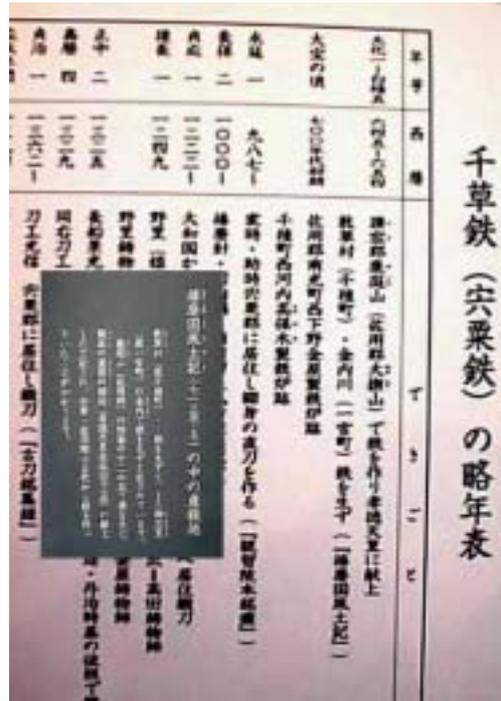
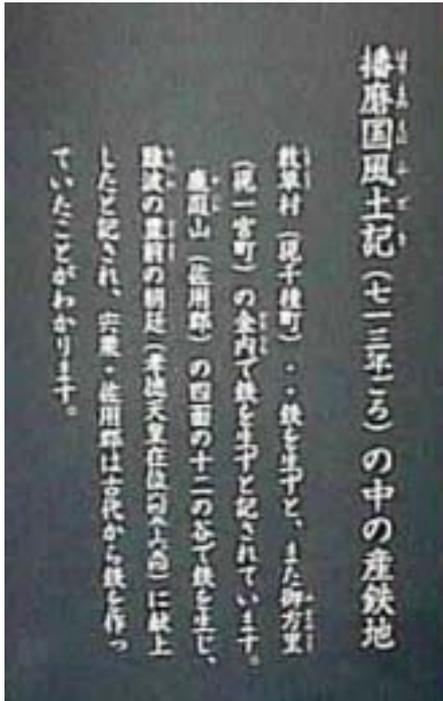
千種が古代より製鉄の産地であったことがこれらの資料からもしのげられます。

千種川を下ると播州赤穂市、その隣には岡山県備前市があります。中世、千草鉄は備前の刀匠たちに珍重され、数多くの国宝重文の名刀を残しています。そして、西洋鉄に取って変られる明治まで、長きにわたって、和鉄の一大製鉄産地であった。



千種川の流れ出る三室山の峯峰

● 播磨風土記 記載



713年頃 「敷草村〔現千種村〕金内川〔現一宮町〕で鉄を生ず」との記載
千種「たたら学習館」展示より

● 金屋子神 伝承 と 千種 岩野辺〔岩鍋〕

島根県能義郡広瀬町の金屋子神社の祭文

『播磨国志相郡岩鍋なる桂の木に高天が原より、はしらの神天降り座すあり。民驚きて如何なる神ぞと問いまつる。時に、神託げて曰く、『われは是れ、作金者金屋子の神なり。…吾は西の方を守る神なれば、むべ住むところあらん』として白鷺に乗りて西の国に趣たまふ。出雲の国の野義の郡の黒田が奥非田の山林に着きたまひて……』

千種の岩鍋（現在の岩野辺）に天から金屋子の神が降り立ち、驚いた人々が何をされる神かと尋ねたら、金屋子の神であると応えさらにその地で鍋を作り、さらに金屋子の神は白鷺に乗られて現在の島根県能義郡に行かれたとも書かれている。 岩野辺の地名の由来は、ここから来ているとも言われている。

- 金屋子神社は「たたら製鉄」の守り神 島根県 広瀬町 金屋子神社 金屋子神話

2. 千種 天児屋たたら公園 と 天児屋鉄山跡



A. 整備前の旧天児屋鉄山跡 walk 1990. 5. 26.

わたしが最初に千種を訪問したのは1990年5月。

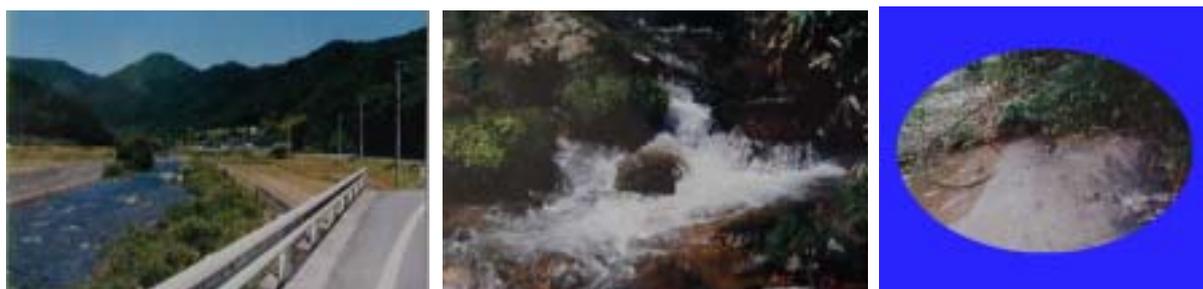
千種の街には立派な歴史資料館があり、そこには貴重なたたら関係の資料などが展示されている。

三室山の谷筋には現在も「たたら」の遺構〔天児屋鉄山遺跡〕が残っていると教えてもらい、千種の街の北側千種側沿いに広がる千種・三室高原へ登って行きました。

千種は岡山と兵庫の県境に位置し、周りを山に囲まれ 三室山を水源とするきれいな千種川が流れています。

この川の源流近くいく筋もの谷筋が砂鉄の宝庫で、古代からこの砂鉄をむ原料とした鉄生産が行なわれてきた。

〔資料によると千種の山々の花崗岩、閃緑岩、石英粗面岩などの地層にはすぐれた真砂砂鉄が含まれていて、今めざす天児屋鉄山跡ばかりでなく、高羅、荒尾鉄山など近世の遺跡や町内の至る所に点在する小規模な古い時代の「たたら」遺跡が点在している。〕



千種川とその川のふちに堆積した黒い砂鉄

川に下りるとききれいな清流の川底には幾筋もの黒い堆積物があり、この川底の黒い堆積をすくいとり、磁石に近づけるとピツタリと吸いつき、紛れもなく砂鉄。今も川筋に在る砂鉄にビックリし、またここが千種鉄の発祥地であることに今更ながら納得。

この地が古代日本の鉄発祥の地。

「製鉄の神である金屋子神がこの千種に舞い降り、そこから吉備を経て奥出雲へ」という金屋子神伝説を頭に、透き通るような青空にそびえる県境の山々をながめながら、三室山の谷筋を上って行きました。もっとも 金屋子神が舞い降りたといわれる「岩鍋の地」は今登ってゆこうとする千種の街から北に広がる千種三室高原とは異り、千種の街の南から東へ波賀町へ抜ける国道を峰床山越えの山々へ向って行

く途中にある。

この千種川の周辺の山々いたる所が 古くからの千種鉄の山地として活用されてきたのだろう。

千種高原三室山へは舗装された立派な道路が岡山県境へ伸びており、途中で谷筋へ分け入る道に曲がり、登って行くとその途中に「鉄山橋」の名の橋があり、そこから少し登ったところそこが天児屋鉄山跡の草ぼうぼうの山端の道沿いに石垣と倒れかかった天児屋鉄山の看板があるのみだった。

草ぼうぼうで中に入れず、荒れ果て道からは全くここが鉄山であることがわかりませんでした。看板だけが、鉄山跡であることを示していました。

千種 旧天児屋 鉄山跡 walk

1990. 5. 26



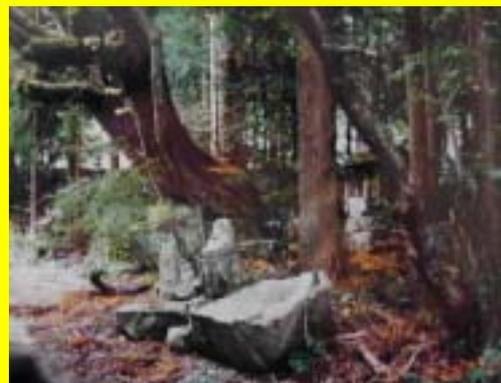
三室山



鉄山橋



天児屋鉄山 勘定場跡



天児屋鉄山 金屋子さん

天児屋鉄山は元禄年間、千草屋源右衛門が切り開いて鉄を吹き、泉屋（住友の分家）が 経営していたこともあるそうです。

明治九年ごろの鉄山が終わりに近づいた時代（閉山は明治十八年）にも七十戸三百人以上の人たちが働いていたといわれ、近世たたら遺跡の中でも規模の大きなたたら遺跡であるが、その時は全くわからず。

何回か訪れている間にこの鉄山遺構が整備されはじめ、金屋兎神を祭る祠をはじめとして、製鉄跡 カンナ流し場等が姿を現わしてきました。そして1997年 川筋には立派な「たたら学習館」が立ち、鉄山跡も立派な製鉄遺跡として整備されました。

B. 整備された天児屋鉄山跡 天児屋たたら公園 と たたら学習館 1999. 5. 26.

スギの森の中に、山城を思わせるようなコケむした石垣が、段々状に続いて、草木の明るい若葉と対照的なコントラストを見せて道から少し上がったところには金屋子神が立派に祭られ「天児屋たたら公園」として整備されていました。

現在の天児屋鉄山跡 天児屋たたら公園 1999. 5.



【天児屋たたら公園の標識】



【たたら学習館】



【天児屋鉄山遺跡 勘定場】



【天児屋鉄山遺跡 たたら場跡】

日本の「たたら」製鉄発祥の伝説の地「千種」に多くの人たちがかかわった「たたら」製鉄の主要現場がすべてそろって跡地として残っている。それが、天児屋鉄山。

日本を造り、日本の発展を古代から今に至るまで支えた鉄。その日本固有の製鉄法である「たたら」の製鉄現場と勘定場など一連の作業場が鉄山としてこの製鉄発祥の地に復元整備されれば意義の深いものとなるとおもいますが……

日本各地にある同じような幾つもの「たたら館」。それはそれでその地方を支えた鉄の歴史を担うものとして意義があるでしょうが… 。 さあ どうでしょう。

2001. 1. 8. 昔の資料を整理しつつ by M. Nakanishi

by M. Nakanishi 2001. 1. 8.

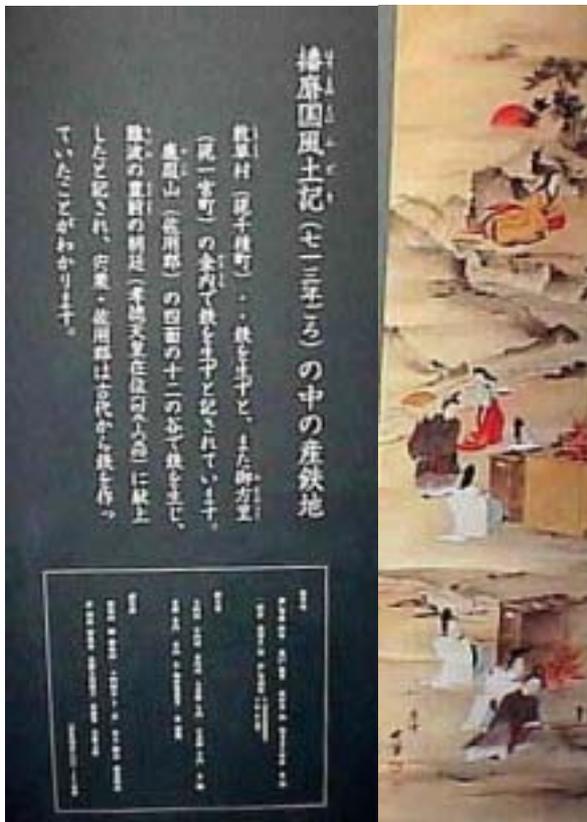
C. 「たたら 学習館」



たたら学習館とその内部



たたら唄



播磨風土記の記述



初花の献額

D. 天児屋たたら遺跡

天児屋鉄山跡の一角 遺跡跡のそばを流れる川淵に在り、たたら製鉄の歴史や工程を模型や図表等で詳しく紹介展示。また千種町で生産された玉鋼を使って製作された日本刀なども展示されている。すぐ横の道路を挟んだ右の山肌を階段状に切り開いた斜面状に石垣を積み、たたら場やかんな流し場ほか主要な天児屋鉄山の跡が整地され広がっている。

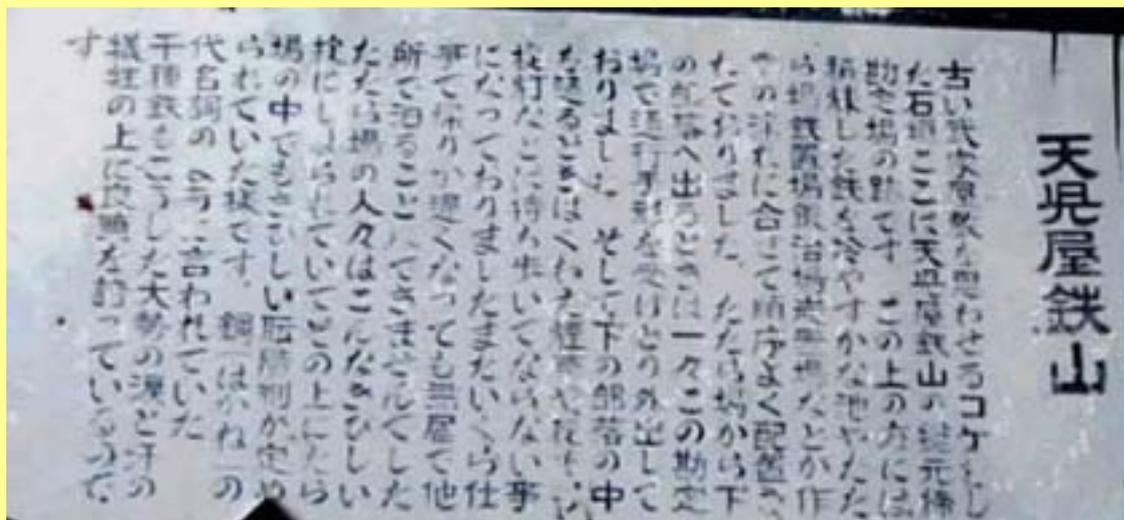


1999. 5. 15. 天児屋鉄山 勘定場跡



1990. 5 .26. 天児屋鉄山 勘定場跡

天児屋鉄山の総元締 勘定場跡に立つ看板 1990. 5. 26.



古い武家屋敷を思わせるコケむした石垣。ここは天児屋鉄山の総元締勘定場の跡です。この上の方には精練した鉄をひやす「かな池」や「たたら場」「鉄置場」「鍛冶場」「炭置場」などが作業の流れに合わせて順序よく配置されておりました。

「たたら場」から下の部落に出る時はいちいちこの勘定場で通行手形を受取り外出しておりました。そして下の部落を通る時はくわえ煙草や???提灯などを持ち歩いてならない事になっておりました。

いくら仕事で帰りが遅くなっても無届で他所で泊まる事は出来ませんでした。

たたら場の人々はこんな厳しい掟にしばられていてその上たたら場の中でも厳しい職階制が定められいた様です。

鋼の代名詞のように言われていた千種鉄もこうした大勢の涙と汗の犠牲の上に良質を誇っていました。



整備されて「たたら公園」となった天見屋鉄山遺跡 1999. 5. 15.



鉄穴流し跡 と 鉄山たたら場跡

「たたら」製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地

3. 岩野辺〔岩鍋〕 1999. 5. 15.

iwnbe.htm by M. Nakanishi



千種 岩野辺



金屋子神社 祭文の写

金屋子神 千種岩鍋 降臨の伝承

播磨国志相郡岩鍋なる桂の木に高天が原より、はしらの神天降り座すあり。民驚きて「如何なる神ぞ」と問いまつる。時に、神託げて曰く、「われは是れ、作金者金屋子の神なり。…吾は西の方を守る神なれば、むべ住むところあらん」として、白鷺に乗りて西の国に趣たまふ。

出雲の国の野義の郡の黒田が奥非田の山林に着きたまひて・・・

島根県 広瀬町 「金屋子神社」祭文より

北の岡山・兵庫の県境から流れ出た千種川が山々が迫る細い谷合を南に流れ下る。源流地域から幾筋かの川が集まり、本流となって谷を下る丁度その出口少し広くなった盆地に千種の街があり、本流は瀬戸内海へ向って流れ下る。この千種川にそった一本道の両側に店が並ぶ千種の街並が広がっている。



神戸からやって来た眼には山奥のわりには明るい商店街を中心とした町並みである。

この千種の町にはいる手前の村には歌舞伎舞台が残っていて、今も農村歌舞伎が受け継がれていると言う。この山間の千種の街で千種川に沿って南の瀬戸内海へ抜ける街道と東西に中国山地の山間をぬって兵庫県・岡山県の町々を結ぶ山越の道国道429号とが交わっている。山間の重要路ではあろうが、昔の賑わいはなく、静かな山間をそれぞれ一筋の街道が貫いている。往時にはこの山奥で作られた「千種鉄」が、この千種の街に集められ、これらの街道を日本各地に運ばれ、多いにぎわったものと思われる。

たものと思われる。

千種歴史民俗資料館に残されている絵図に馬の背に積まれ運ばれて行く鉄と千種の街道の賑わいぶり

が描かれている。千種で作られた鉄が古代から明治の近代西洋の鉄がさかんになるまで、幾世代にも渡って運ばれて行った。この街道の十字路を東へ少し入っていった次の集落が「古代製鉄の神 金屋子神 降臨の伝承地 岩鍋」である。



千種の街道の賑わい 馬の背に載せて運ばれる鉄 千種町歴史民俗資料館で

千種の街へはいる南の入口のところに街道の十字路があり、東西にのびる国道 429 号線を東へ千種の家並を抜け、山間の道を 1km ほどのぼっていく。

国道 429 号線の道路標識とともに岩野辺の地名が不意にあらわれ、岩野辺の部落の家々が途切れ、山へ

かかる峠の三叉路の道端に大きな『古代製鉄の神 金屋子神 降臨の地 岩鍋』の碑が建っていた。

振りかえると千種の街の向こうに「たたら」の山々が、また北も道が伸びる東にも山々がひろがっている。

時たま通る車以外にひとかけなし。静寂の中に 何の説明書きもなくこの碑がたっている。この周辺の山々には「たたら」製鉄の遺跡の印が至る所にいれられているが、この峠からはなにも見えない。ただ 幾重にも重なって見える周辺の鬱蒼とした森と山々が「たたら」製鉄の繁栄を築いたものと想像する。

「一度どんどころなのか 訪れたい」とおもってきたが、本当にあっけない出会いであった。こんなに千種の街近く また 街道沿いが古代鉄発祥伝承の地「岩鍋」とはおもっても見なかった。

碑があるのみで なにもごてごてした説明書きがないのもいい。周辺の山々を眺めながら、少し三叉路をくだったり、まわりの山道を歩いたりしたが 今は本当に静かな山里である。

千種 岩鍋にて

by M. Nakanishi 1999. 5. 15.



金屋子神 降臨の伝承の地 千種岩鍋



製鉄の神 金屋子神の総社

1.2. 金屋子神社 と 金屋子神神話

島根県 広瀬町

hrse.htm by M. Nakanishi



広瀬町ホームページより

1. 金屋子神社 Country Walk



〔広瀬町 金屋子神社 1999.3.12.〕

1999年3月。米子の娘宅からは川沿いに中国山地へわけ行って車で1時間たらず城下町広瀬の街から更に山間に入ったところに「金屋子神社があった。広瀬町の最奥部の重畳たる中国山地の小盆地、西比田に鎮座し、広瀬町の中心からおよそ25kmの南方にある。

古来タタラ神である金屋子神の社として、鉄山師達の厚い信仰を得、今も鉄関係者の参詣の多いことが、奉納された数々の品々やその本殿の立派さ 良く整備掃き清められた境内の様子からうかがえる。

「たたら」遺跡を訪れると必ず「金屋子さん」が祭られているのを見て、総社である広瀬町 金屋子神社は是非行きたいと思っていたところである。

金屋子神信仰の詳細は金屋子神神話として別に記載したが、「鉄山秘書」〔1784〕には金屋神と「たたら製鉄」との関係伝承を次のように載せている。

「太古ある早天の日、土民が雨乞いをしていたところ、播州宍粟郡岩鍋に高天原から一神が降臨し、金属器の製作法を教えた。

神はさらに西方に飛び、出雲国能義郡比田の黒田に至り、休んでいると、たまたま狩りに出ている安部氏の祖正重なるものがこれを発見。 やがて神託により、朝日長者なるものが宮を建立し、神主に正重を任じ、神は自ら村下となり、朝日長者は炭と粉鉄とを集めて吹くと、神通力によって鉄が限りなくわきでた」と。

鉄山秘書より

神社の大鳥居をくぐるとすぐ右手には、金屋子神信仰の中心にある金屋子神社の縁起や「たたら」にまつわる色々な事を映像や展示で示した立派な金屋子神話民俗館がある。

また 掃き清められた参道の正面奥に門越しに立派な本殿が見え、参道の片側道に沿って大きな「けら」が数個並べて置かれており、その奥に「金屋子神」が舞い降りたとされる「桂」の古木があった。

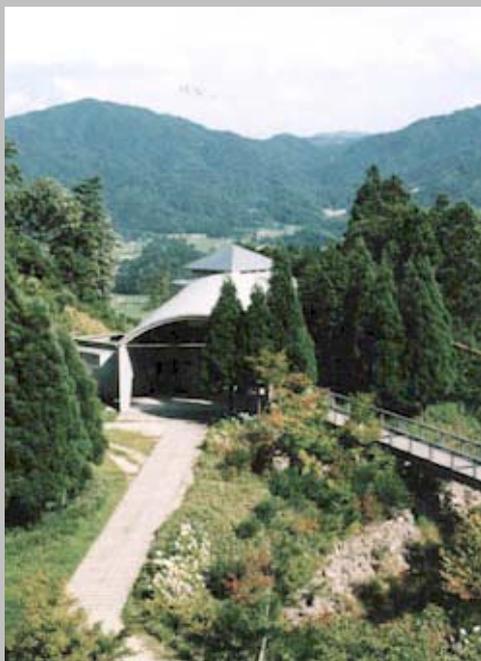
森につつまれた静けさの中に、掃き清められた境内に立派な本殿がある。

さすが製鉄の神 本殿には奉献された品々に各製鉄会社の名がずらっと並び、立派な本殿とともに、現在にいたるまでここが鉄の守り神であることを示している。



〔金屋子神社 参道脇に並べられた「けら」 1999. 3. 12. 〕

2. 金屋子神話民俗館と金屋子神話



金屋子神社の大鳥居をくぐり参道の直ぐ左手の森に囲まれた丘の上に立派な金屋子神話民俗館があり、有名な金屋子神神話がわかりやすく展示されている。

金屋子神話

金屋子神社に伝えられる製鉄と鍛冶の神々の神話



大昔のある年の夏のことです。播磨の国岩鍋（今の兵庫県と岡山県との境）という山の谷あいにある村あたりいったいは、何日も雨がふらず、太陽が毎日ぎらぎらと大地をこがす日が続きました。村人たちは、このままでは川の水も干あ bb がってしまい、田畑の作物もすべて枯れてしまうと、山に集まって雨が降るよう天の神に祈ることにしました。

村人たちは、奥深い谷川の岩かげのふちで、まわりを清めて火をたき、村おさが岩に向かって手を合わせ、呪文を唱えて一生懸命神に祈ると、不思議にも空にはにわかには雲がわきおこり、大つぶの雨がふってきまかした。「雨だ、雨だ」、「これで畑の作物も枯れずにすむ」、村びとたちは雨にぬれながら、鉦や太鼓をたたいてよろこびの踊りをおどり始めました。

たかぶる雨乞いの祭りのなかで村おさは、自分のところにひらめいた神に、「私たちの願いを、このようになえてくださったあなたは、いったいどなたさまなのか教えて下さい」と、感謝の気持ちをこめて聞きました。神は、「わたしは、金山彦天目一個神ともいう金屋子の神です。生き物に生命をよみがえらせたり、田畑の作物を豊かにみのらせるためには、水は最も大切なものの一つです。私は、この

地ではさまざまな人びとの幸せをまもるために雨を降らせましたが、これからは遠く西の方へいき、そこで鉄を吹き、道具をつくることを多くの人に教えなければなりません」といって、白鷺によって天空高くに飛び立ちました。金屋子神は、出雲の国の上空までやってきました。そして空から鉄づくりに最も通じた地をさがしました。昔から『たたら』と言い伝えられてきた鉄づくりに、山や川でとれる砂鉄と、鉄をとかすのに必要な大量の木炭と、炉をつくるのにふさわしい



粘土がなくてはなりません。金屋子神は、その三つの条件をかねそなえた地として能義郡西比田を選びました。そして、西比田黒田の森の桂の木に降り立ちました。

金屋子神を最初に見つけたのは、山に犬を何匹もつれて猟に来ていた、安部正重という人でした。

犬たちは、白鷺のからだから放たれる神の光明（ひかり）をみて、身をちじめて吠えています。正重は、犬たちをなだめて神におそるおそる問いかけました。「あなたは

この地に何をしに来られたのですか」と。すると神は正重に、「われは金屋子の神なり。このところに住いして、『たたら』を仕立て、鉄（かね）を吹くわざを始むべし」と告げ、自らも神としてその仕事がうまくいくよう協力することを約束しました。



神からのお告げをつつしんで受けた正重は、近くに住む長田兵部朝日長者にこのことを伝え、ふたりはまず神がおりた桂の木のわきに金屋子神のお宮を建てることから仕事を始めました。そして、正重はその宮の神主に、また長田兵部朝日長者は、これからつくる『たたら』の村下（技師長）をつとめることになりました。『たたら』の高殿（施設）の建設には、金屋子神をとりまくおおぜいの神々が天から地上に来てかかわったと伝えられています。

建設現場に最初にあらわれたのは、なんとおどろくことに75人の子供の神々です。子供の神々は、まず75種類の仕事に必要な道具を

つくりました。始めは自分たちが村下となって土地を整備したり、杉の木を伐って『ふいご』をつくったりして、建設の総指揮にあたりました。

一方、朝日長者は山に入り砂鉄と炭を集めています。高殿では炉がつくられ、そのまわりには、建物の中心となるたいせつな6本の大きな柱が建てられ、その柱を金屋子神をはじめ、木の神、日の神、月の神が、東西南北の方向を分担して守っています。このほか屋根を火災から守る神、炉に風を送る風の神、風を送る『ふいご』などさまざまな道具をつかさどる神々、また、『たたら』には、数ぞえきれないほどおおぜいの神々が参加し、協力しています。

金屋子神は、奥出雲一帯に次々とたくさんの『たたら』の施設をつくりました。

金屋子神がかかかわると、どこの『たたら』でも質のすぐれた鉄が限りなく産みだされました。

金屋子神がかかかわると、どこの『たたら』でも質のすぐれた鉄が限りなく産みだされるので、金屋子神に対する信仰が、『たたら師』とよぶ、たたらで働く人たちのあいだにひろまっていきました。

たたら師たちからは、「金屋子さんは、生産を高める女の神さまだ」と信じる人も出てきました。また、人によっては「いや、金屋子さんは男の神さまだ。いつも炉の中の強い火の光りばかり見ているので、片目をとられてしまった。一つ目の神さまだ」という人もあらわれました。

ある年の冬、金屋子神は村下をつれて『たたら』に向かう途中、高殿の前でとつぜんとびだしてきた犬に吠えられ、ふたりはなんとか逃げようとしたのですが、びっくりした村下は、地面に落ちていた麻緒に、足の小指をとられころて転んで死んでしまいました。金屋子神は、集まってきた『たたら師』たちに、「村下の死骸は葬ってはいけません。そのまま高殿の元山柱にくくりつけて鉄を吹くのです」と、教えました。「たたら師」は、神のいわれるままにして仕事を続けると、いままで以上によい鉄を大量につくることができたということです。

金屋子神は、このように「死のけがれ」を好む不思議な性格の一面をもった神でもありました。

広瀬町 金屋子神話民俗館 資料より

2000. 1. 8. 作成 by M. Nakanishi

姫路市 兵庫県立歴史博物館 ビデオライブラリー

1. 3. 「千種鉄 と たたら製鉄」

hmzi1.htm by M. Nakanishi 2001. 1. 21.



千種町 千種川と砂鉄



千種 天児屋鉄山遺跡



金屋子神と岩野辺のたたら

日曜日 神戸に帰ったついでに、気になっていた歴史博物館のビデオライブラリーの「千種鉄」のフィルムを見にでかけた。前に一度見た事があるのですが、もう一度「千種 たたら」の歴史について頭の整理のつもりででかけました

姫路城の北側 きれいに整備された公園の中に博物館がある。中に入ると思いもかけず、兵庫歴博ゼミの講演会村上泰樹氏「発掘から見た兵庫の歴史 兵庫の鉄」が開かれており、飛び込みで参加。

古代鉄と渡来人の関係や「日本での鉄の生産がいつはじまったのか？」など 自分のイメージ高めようと思っている時だったので、本当に良い機会となりました。

また 今 千種町と隣接する山崎町の山奥で「古代たたら遺跡」の発掘がはじまっていると聞きました。是非たずねようと思っています。ビデオライブラリ「千種 たたら」のフィルムから 千種「天児屋鉄山」の概観図や千種歴史博物館の絵図の写真が「金屋子神」を描いた物である事そして岩野辺の古いたたら遺跡の写真等を見ることができました。また千種のたたらに関係した千種の町の人たちに連綿と続く苗も。ビデオからとった写真を少しスライド風にまとめました。また、最初に千種町歴史民俗資料館を訪れた時に「千種鉄」関係の資料を整理まとめられた本を戴きましたが、今読み返してみても多くの資料が整理されています。先のまとめに記すのを忘れませんでしたので参考に書名のみ記します。

●千種町教育委員会「たたらと村と百姓たち 千種鉄関係資料集一」 昭和 58 年 11 月 15 日発行

2001. 1. 21. 神戸にて M. Nakanishi

千種鉄とたたら製鉄

兵庫県立歴史博物館 ビデオ ライブラリーから

1. 金屋子神話と「たたら」製鉄図



2. 金屋子神 降臨伝承の地「千種 岩野辺」の製鉄遺跡



3. 「たたら」製鉄に関する苗字例



4. 千種川の流れと砂鉄



5. 千種 天兒屋鉄山遺跡



1.4. 「発掘が語る兵庫の歴史『兵庫の鉄』」

村上泰樹氏 講演

—中国伝来の弥生 鑄造鉄斧には既に熱処理による表面加工がおこなわれていた—
hmzi2.htm by M. Nakanishi 2001. 1. 21.

日曜日 神戸に帰ったついでに、気になっていた歴史博物館のホームライブラリの「千種鉄」のフィルムを見にでかけた。

博物館では思いもかけず、兵博ゼミの講演会村上泰樹氏「兵庫の鉄」が開かれており、飛び込みで参加。丁度古代鉄と渡来人の関係や「日本での鉄の生産がいつはじまったのか？」など 自分のイメージ高めようと思っている時でしたので、本当に良い機会となりました。

また 現実に今 発掘がはじまっている山崎町での「古代たたら遺跡」の紹介是非たずねようと思っています。

ライブラリ「千種 たたら」のフィルムから千種「天兒屋鉄山」の概観図や千種歴史博物館の絵図の写真が「金屋子神」を描いた物である事そして岩野辺の古いたたら遺跡の写真等を見ることができました。

また 千種のたたらに関係した苗字も

兵庫の地が発掘された弥生時代の鉄器・石器道具の分析から倭・大和とほぼ同じ先進の地であったという川村氏の考察 道具の見方 道具が語る考古学おもしろかったです。

また 紀元前 今から約 2000 年前 中国から伝来した鑄造鉄斧には、現在にも通ずる熱処理の原点とも言える脱炭の熱処理が行なわれていた事教えてもらいました。

鉄の技術の奥深さというか古代かには脈々と流れる鉄の技術に触れることができました。

寒い冬 家にじっとしていようかとも思いましたが、やっぱり 出かけるとそれだけの価値有り。



福岡県比恵弥生遺跡から出土した中国製鑄造鉄斧 断面
弥生時代 中期 今から約 2000 年前

村上泰樹氏は「兵庫の鉄」講演の中で 村上恭通氏著「倭人と鉄の考古学」をベースに中国・朝鮮半島と「倭・日本」の交流・鉄伝来の歴史を解り易くレビューし、それらと兵庫で発掘された縄文遺跡・弥生遺跡からの出土鉄との関係が話された。

その中で道具 石器から鉄への変化 また、鉄の日本伝来が巻き起こす古代史の謎解明の手がかりとし

て、紀元前 今から約 2000 年前福岡の弥生遺跡から発見された中国大陸伝来の鑄物製鉄斧にスポットをあて、鉄伝来がの歴史を語られたが、実におもしろかった。

その中で出土した中国製の鑄造鉄斧の表面には 表面部をネバクするため均一の深さで脱炭層を付与する熱処理が施されている事知りました。(例えば 福岡県比恵遺跡鉄斧など)

村上恭通氏著「倭人と鉄の考古学」の表紙を飾る中国製鑄造鉄斧の断面写真は実にあざやかで、古代から現在へ通じる熱処理技術のまさに原点であると私も思います。

鉄器は韻鉄の加工がスタートといわれているが、紀元前中国では精練が既に行なわれ、その鉄を用途にあうように均一に熱処理する技術が既にあったこと驚きです。

また、低温加熱して鍛錬することで不純物や炭素を飛ばし、強靱化する技術(錬鉄)も既に紀元前にあったという。

いずれも現在に通じる鉄の技であり、7 世紀 古代丹後の「高チタン砂鉄によるたたら」の考え方が現在の溶接材料に通じる技であること見つけてびっくりしましたが、それよりもずっと以前に鉄の熱処理の技がほぼ完成された形で日本に入ってきていた事全く知らずビックリしました。

もっとも 日本では当時まだ作れず、日本で作れるようになるのはずっとあと 6~7 世紀。

おそらく 朝鮮半島と交流のあった北九州・吉備などに鉄製品や技法が最初に伝えられたと思われるが、倭・大和が次第にこの鉄のルート・製品の流れを支配することにより、圧倒的な強さを持ち 群雄割拠していた日本各地の豪族を配下においていったに違いない。そして その間 多くの渡来人を配下に鉄の精練・熱処理技術も学び取り、さらに巨大になっていったと考えられる。

今 日本で具体的な精練が行なわれたことがはっきりしているのは 6~7 世紀頃であり、それ以前の鉄の伝来・製造技術については良く判っておらず、日本誕生に間違いなく大きな役割を果たしたに違いない日本での鉄器の製造と日本誕生のロマンと重ね多くの古代史ファンや学者を魅了している。

千種川水系の兵庫県山崎町の一番北の端千種町と接するところ 丁度 古代製鉄発祥の伝承地である岩野辺から山を会して南側にあたる山奥小茅野後山で今古代のたたら遺跡の発掘が進んでいるとの事。今のところ平安時代には遡れるらしいが、調査が進めば、もっと古代へさかのぼれる可能性があるという。「古代製鉄発祥の地」の伝承のある「千種」近隣地で本当に「古代へ遡れる遺跡が出て来ないか」と期待。

是非暖かくなれば walk しようと思っている。

2001. 1. 21. 姫路 兵庫県歴史民俗博物館で By M. Nakanishi

~~~~~

### 播磨国 千 種 鉄

1. 「たたら」製鉄の神 金屋子神 降臨伝承の地  
和鉄のふる里『千種・岩野辺』

【完】